

関東ふれあいの道を歩く(7) 神奈川 (⑦大磯・高麗山のみち)

2019年7月1日 池内 淑皓

2019年5月12日(日)晴れ時々曇り。前回歩いた「⑥湘南海岸・砂浜のみち」の続きを歩く。
出発地は JR 平塚駅、ここからバスで西海岸終点まで乗り、高麗山に向かって歩く。
湘南平を過ぎると南へ方向を変え、大磯方面に下る、島崎藤村終焉の地、西行ゆかりの嶋立庵に寄り、今回ゴールの城山公園前バス停に到着。



(自然歩道連絡協議会)

スタートは金目川(花水川)下流の西海岸バス停



今日のコースの行程図

案内板で見ると、7.6km (2:05) となっているが、寄り道しながら歩いてみると、10.3km (3:15) かかっていた。



起点の駅は JR 平塚駅。日曜日の朝にしては、ほぼ満員電車であった



バスは駅西口から出ている、八重咲町、桃浜町、葦平（すみれだいら）、龍城ヶ丘、花水台、撫子原（なでしこはら）と粋な名の地名を通る。



終点は金目川（花水川）の河口そば「西海岸バス停」に着く。

「関東ふれあいの道」案内板と道標が設置されている。遠くに湘南平が見える



下花水橋から見た「高麗山（168m）」

川は金目川（花水川）で二級河川、源流は丹沢鍋割、塔ヶ岳、大山。



JR 東海道線をガードで潜り、線路沿いに歩くと、道標が道案内してくれる



「高来神社」ご神体を裏山の高麗山に求め、神功皇后（199）が三韓に遠征したあと山の頂に神皇産霊神を祀ったのが始まりと伝える。



「高来神社観音堂」且つては高麗寺と名づけられ、多くの堂塔伽藍、僧房があったが、戦火と明治の廃仏毀釈で失った。



椎の木（樹齢 300 年）とヤブニッケイ（樹齢 250 年）が合体して生育した「シイニッケイ」 大磯町の天然記念物に指定。境内に繁茂している



ここから高麗山へは「男坂」と「女坂」がある、私はゆっくりと女坂を歩く



「高麗山頂上（168m）」 神皇産霊神

天智七年（668）高句麗が滅亡すると、多くの渡来人が日本にやってくる、王族若光はここに来て大陸の文化を伝えた。江戸時代に入ると、ここは参勤交代の道筋であるから、埼玉県日高地方に移住させられた（八高線高麗川付近）



こんな所もあるが、たいした事ではない、快適な尾根道だ。



高麗山から湘南平への尾根は快適な遊歩道で、暖帯特有の常緑広葉樹が繁る



家族連れのピクニックには格好なコースだろう、ふれあいの道にふさわしい



「浅間山（181m）」ここには富士の浅間神社を分祀した祠と、一等三角点がある



「浅間山一等三角点」全国に 974 点ある中の一つ、最も標高の低い三角点。
因みに一等三角点の最高峰は、南アルプスの赤石岳（3,121m）である。
富士山（3776m）、北岳（3192m）、奥穂高岳（3190m）に三角点はない。



「湘南平」広く平坦で、バス道が近くに来ていれば、太平洋戦争での陣地の一つ。
ここにも高射砲の陣地が作られたが、爆撃で破壊された。



ここは、1957 年平塚市と神奈中が自然公園の計画を立て、開発・整備した。
湘南平から大磯に向かって一気に下る、東海道線をガードで潜ると島崎藤
村邸への案内があるから、寄ってゆこう



「島崎藤村旧宅」1941 年（昭和 16 年）藤村は温暖な大磯が気に入り、71 歳で
永眠するまで 2 年間ここで過ごした。
ここから東海道の国道一号線に出て、嶋立庵に向かう



「嶋立庵」西行がここに立ち寄った事で有名となった場所。
1664 年（寛文四年）小田原の崇雪が草庵を結んだのが始まり、1695（元禄八年）
俳人の大淀三千風が入庵した。 海に注ぐ溪谷美が素晴らしかったと云う。



1,186年（文治二年）西行が東大寺大仏殿再建のため、奥州藤原氏を訪ねる途中ここに立ち寄り、鎌倉に出て源頼朝に面会している（8月15・16日）



東海道を西へ。大磯中学校歩道橋からの松並木、樹齢400年の松もある



ここには関東ふれあいの道案内、表示板、里程標全てがそろっている



ふれあいの道は、学校の脇を大磯の海岸に向かう、”こゆるぎの浜”



道は西湘バイパス沿いの太平洋自転車道を歩くが、ウォークの場合は不適、楽しくない。絶えず自動車の騒音に悩まされ、海が見えない。



「⑦大磯・高麗山のみち」のゴールは城山公園前のバス停。

時間も充分あるので、午後は引き続き 「⑧鷹取山・里のみち」を歩く

10 時 45 分到着 14,000 歩 (10.3 k m) この項完

関東ふれあいの道 神奈川 (8) (⑧高取山・里のみち) に続く